

第15期 2025（令和 7）年度

社会福祉法人もやい聖友会 事業計画

第15期 社会福祉法人もやい聖友会 事業計画

<概要>

もやい聖友会は、創設から丸14年となりました。

昨年度に引き続き、人件費や物価の高騰による圧迫は、さらなる経営面での工夫を必要とするものと思われます。そのため、第15期では**諸経費の軽減策、稼働率のアップ**など重点課題として取り組んでまいります。

それともなあって、令和6年度に導入したスマートHRの活用改善も含めて、事務方と現場での業務フローの見直しを図り、現在、北九州市 ロボット・DX 推進センターからの支援も、継続支援を受ける予定となっています。

事業所の運営については、ふたつの計画があります。ひとつは、運営上の法人間での取引関係や補助団体との関係などから、障がい福祉部門を、社会福祉法人から切り離し、NPO法人へ移管すべく『NPO法人もやいのたね』の設立に向けて動いているところでございます。もうひとつは、コミュニティカフェである、黒崎のMOYAI ステーション 96cafe の運営の見直しです。現在、計画策定中となっていますので、補正予算などによりお知らせすることとなります。

また、人材確保や育成につきましても、法人の事業所運営には大きな課題として継続することとなります。昨今では、保育士の確保が厳しいことを聞いてはありましたが、それを実感する事態となつつあります。また、介護分野におきましては、**海外人材だけでなく、介護職の隙間時間を使ったカイテク、北九州市も進めておりますスケッターの活用**なども併せて進めていくと同時に、地域人材や独自の有償ボランティアポイント制度も拡大に向けて、取り組みを強化していく計画です。そのためには、年齢、世代、性別問わず、職員、地域のみならず、利用者やそのご家族のご協力もいただけるような意識改革も必要と考えています。『おたがいさまで笑顔がいっぱい』を基本理念として、法人職員、利用者、家族、地域の人たちの一層の「顔の見える関係づくり」「つながりづくり」そこから生まれる「価値観や意識の改革」をもととして、「**社会の中でのさらなる進化**」を第15期のテーマとすることといたします。

令和6年度は、もやいの取り組みを書籍化したこと、ユニットケア推進センター主催の北九州市では、ほぼ義務化されている研修の研修施設として、九州では7個目、北九州では初の施設となったことにより、全国から多くの注目を集める法人となりました。

今までの積み重ねてきたことを継続、進化していけるよう今の時代に合わせた変化を考慮しつつ、15期に置かしましては、主として「収入の拡大」「業務効率の改善」「職員の活躍出来る機会の創出」「パフォーマンスの向上」「社会へ向けての発信」を重点目標として事業計画を策定します。

私たち、社会福祉法人もやい聖友会は、これからも変わらず、
『おたがいさまで笑顔がいっぱい』を基本理念として、
「医療、福祉、そしてまちが一体となった、
誰ひとりも孤立しない安全安心な
次世代を育てられる地域共生社会を目指して」
未来の子ども達のために頑張ってまいります。

1. 法人理念『おたがいさまで笑顔がいっぱい』

2. テーマ「社会の中でのさらなる進化」

3. 目標

I：利用者にとって

- ① 誰もが「地域住民」「社会の一員」として笑顔で生きるお手伝い
- ② 自分らしい生き方の延長線上にあるユニットケアの推進
- ③ 災害、感染症などリスクに対して、職員一丸となり安全対策を図る。

II：地域にとって【 まちごと丸ごと『サ高住』構想 】

- ① 医療、福祉、地域との連携をはかり誰ひとりも孤立しない地域づくり
- ② 次世代を育てられる多世代ごちゃ混ぜな地域共生社会を目指した、
人と人、人と地域を繋ぐ活動
- ③ 次世代育成を考えた「生きるを繋ぐ（終活）」活動
- ④ 発信の場としての居場所やコミュニティづくり
- ⑤ 職員の専門性を活かした地域における医療や福祉の知識や情報の共有

III：法人にとって

- ① 職員等の健康管理を経営的な視点で考え、健康の保持・増進につながる取組を
戦略的に実践する「健康経営」を推進
- ② さらなるDX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進による組織強化
- ③ 直接支援以外の業務の効率化やDX推進（見守りセンサーの導入など）
- ④ 人材の確保と育成
- ⑤ 事業所の業務効率化に向けた取り組み
- ⑥ 職員、利用者の活躍出来る場の創出とパフォーマンスの向上

IV：職員にとって それぞれのライフステージに合わせたワークライフバランスの実現

3. 運営事業

(1) 介護保険事業

特別養護老人ホーム

ケアプラザ倶楽部雪月花（29床）（稼働：19床）⇒満室に（7月予定）

银杏庵穴生倶楽部（120床）（稼働：110床）

短期入所生活介護

短期入所生活介護 円（10床）（稼働：0床）⇒稼働（7月予定）

短期入所生活介護 ゆい（10床）

認知症共同生活介護

グループホーム蓬萊（18室）

小規模多機能共同生活介護

喫茶去庵（25名登録）

(2) 保育事業

北九州認可小規模保育事業所

もやいのうち保育園（定員 19 名）

華里おひさま保育園（定員 19 名）

北九州市子育て世帯訪問支援事業

産前産後子育て支援ヘルパー派遣事業

もやいろのはな

(3) 障がい福祉事業

障がい児放課後等デイサービス（雪月花内）

もやいのえんがわ（定員 1 日 10 名）

未就学児児童発達支援事業所（雪月花内）

もやいのえんがわ（定員 1 日 10 名）

就労継続支援事業所 A 型

MOYAI ステーションねむのき（定員 1 日 10 名）

就労継続支援事業所 B 型（定員 1 日 10 名）



『NPO 法人もやいろのたね』
を設立後移管予定

(4) その他の事業

ふれあい村竹末 見守り事業

MOYAI ステーション 96cafe（コミュニティカフェ）

公園の隣接地「もやい夢ガーデン」

地域コミュニティ FM ラジオ（サテライトスタジオ）

もやいろファーム（日鉄興和不動産より借地）

銀杏庵穴生倶楽部内のレンタルスペース

4. 法人としての具体的な目標

(1) 法人運営基盤の安定

① 事業収支±0

- ・稼働率のアップ
- ・適切な人材配置の見直し

- ・ 利用料金や電力供給会社の見直し
- ・ 補助金や交付金などの活用
- ② 会計、経理業務の改善
 - ・ 事業所ごとの試算表の定期的なチェック
 - ・ 顧問契約税理士との定期的な意見交換
- ④ 労務関係の法令遵守
 - ・ 社会保険労務士顧問契約の締結
 - ・ 人事、労務の業務効率化（スマート HR 活用促進）
 - ・ 退職金制度の検討と策定
- ⑤ リスク管理
 - ・ デジタルデータの増える中でのサイバー攻撃に備えた職員教育やセキュリティの徹底
- ⑥ DXの推進による組織強化と業務の効率化
 - ・ 見守りシステム
 - ・ 業務フローの見直し（北九州市ロボット・DX 推進センター）
 - ・ 九州工業大学有給インターンシップ（柴田ゼミ）
- ⑦ 人材の確保と育成
 - ・ **ユニットケア推進センターリーダー研修実施施設の更新継続**
 - ・ 未就学児子育て世帯職員への支援
 - ・ 健康経営優良法人 2026 への更新認定に向けての準備
 - ・ 健康宣言ふくおかの実践
 - ・ 介護応援宣言への登録とその実践
 - ・ 出会い応援団体への登録とその実践
 - ・ 子育て応援宣言への登録とその実践
 - ・ 特定技能実習生の生活支援（ベトナム、インドネシア）
 - ・ 子連れ、**ばあちゃん連れ出勤**推進
 - ・ 赤ちゃん職員の採用
 - ・ カイテクの活用
 - ・ **スケッターの活用**
 - ・ **ボルクバレット北九州など他企業との連携（もやいボルクレンジャーの活動）**
- (2) 大規模災害に備えた防災・減災
 - ・ 非常食備蓄について、サンキュードラッグとの協定の継続
 - ・ 福祉避難所としての模擬訓練や行政との連携活動
 - ・ 必要備品などについての確認、見直し
 - ・ 各事業所の BCP 策定（事業継続計画）と見直し
- (3) 地域とのつながり
 - ・ 引野、穴生、竹末若葉、永犬丸、担当者を中心にそれぞれの繋がり構築
 - ・ 地域へのご恩返し活動
（清掃活動、夜間見守りパトロール、イベントお手伝い、どんど焼き、神社）

・施設を要とした活動の継続

(4) 社会貢献事業

①地域包括ケアの構築推進に向けて

医療・介護・健康・予防だけでなく、それらを支える土台となる本人や家族の選択と心構え、そして、それぞれの人生に寄り添ったお手伝いが継続して出来るように、つながりや、地域や、他法人、事業所との連携を大切にします。また、地域における生活の基盤となる「住まい」「生活支援」のシステムを構築していくために、その基盤となるまちづくり活動への参加をします。

誰もが安心して生活できるように「地域まるごとサ高住」を目指します。

②地域福祉の核としての存在

高齢者だけでなく障がい者や子育て支援など、地域の人にとって相談できる「地域包括ケアセンター」や「まちの保健室」「もやい通りマルシェ」、子ども食堂である「みんなの食堂もやい」「96cafe もえもえキッチン」の運営や、施設の貸し出しを通して、地域に居住する子どもから高齢者までの居場所づくりを行い、コミュニティの場として機能できるような運営を行います。また、特養の「雪月花」での、認知症に特化した相談窓口の設置や認知症カフェの定期開催を行います。

施設や人材を地域のために活用していただけるように努めます。また、子育て支援を通して次世代の育成にも力を入れます。

③地域の活性化

北九州は、政令市の中でも高齢化率（65歳以上人口）がトップです。

①や②を実践することによって、住みよいまちを目指し地域の価値をあげることによって地域の活性化につなげていけるよう率先して考えていきます。

④地域貢献活動への支援

職員が地域の行事や運営の手伝い・ボランティア等を行った場合、職場と離れたところでも、地域貢献に積極的に取り組もうとする職員を応援します。

社会福祉法人が、施設などの事業所運営だけを行っていても、公益性は希薄化し営利法人となら変わらなくなってしまいます。新たな公益性を示すための取り組みをすべきであり、それはその地域で必要とされることであり、社会情勢にも合致した社会貢献事業を考えていかななくてはならないと考えています。

⑥ 変化の多い社会へ向けての発信

・もやいボルクレンジャーの活動

・『福祉施設からはじまる多世代ごちゃまぜ地域共生社会

～じいちゃん、ばあちゃん、パパとママ、地域を彩る子どもたち～』

幻冬舎より出版（税込み 990 円）

・講演会活動（京都府、佐賀市 ほか）